

工学部 電子情報通信工学科 2025年度卒業
大阪府 中学校・数学 合格

坂本 優梨さん

この度、大阪府教員採用試験の中学・数学で合格することができました。中学生のころからの夢であった教員に現役で合格をすることができ、嬉しく思います。その背景には、教員採用試験に理解を示していただけただけ教授や教職センターの職員の方々、教員採用試験に向けてともに励んできた仲間、私の背中を押し続けてくれた家族や友人の支えがあってこそだと思います。

私は、教員採用試験を受けるにあたって教育支援に参加していました。その施設は、勉強を教える場ではなく、不登校や家庭環境に悩んでいる子供達など様々な背景を抱えている子供達の話し相手になることや、様々な企業と連携を取ってイベントを行っていました。私は、その場で教員になると見ることが難しいが、知っておくべきである子供たちの背景や心情についてたくさんの学びを得ました。生徒との距離感の取り方や寄り添い方なども学ぶことができました。

試験に向けた対策としては、私は参考書を読むことが苦手で過去問をひたすら解いていました。勉強を始めたのは試験の10か月ほど前です。一次試験の一か月前までは、勉強をするという習慣をつけるために一次試験と二次試験の過去問を交互に解くようにしていました。一次試験の一か月前では、一次試験の過去問を解き続けて必ず7割は超えるようにしていました。一般教養の勉強のために参考書を何冊も買い、数量的な問題に絞って解くようにしていました。切り替えをするべく、家は休む場所として勉強をしないようにしていました。

二次試験では、専門科目の筆記、模擬授業（4分30秒ほど）＋面接でした。専門科目は大阪府の過去問や全国の過去問などを解いていました。面接練習は教職センターの職員の方々が実施していた面接練習に参加して過去に面接官をしていた方からアドバイスをいただきました。模擬授業については、教育実習に参加した際に担当教諭からアドバイスをいただいたことを意識して作りました。他にも、私が中学生・高校生の時の先生方に授業づくりで意識していることを電話で聞き、すべてメモを取り作っている際に意識できているかの確認をしていました。持ち込みはA4サイズの紙一枚だったので、一時間の授業を想定して作り指導案を印刷して持ち込みました。練習としては指定された授業が中学1年生の範囲だったので、小学校高学年の妹に対して授業を行い、小学生でも理解できるような具体例や言い回しを意識して作りました。他には、教育支援にいる子供たちにどんな授業なら楽しいと思えるか、逆にどんな授業なら話を聞かなくなるかなど質問をして改善に尽くしました。

私が教員採用試験に合格できたのは、私の頑張りであると言っていますが、私の合格を自分のことのように喜んでくださる教授や教職センターの職員の方々、家族、友人の支えがあってこそだと思っています。様々な実習で沢山の方と関わり、応援をしていただきました。その言葉が、時にはプレッシャーにもなりましたが、自分を律せる言葉になっていました。他にも、教育実習で生徒たちからもらった手紙やお守りなどをすべての試験に持って行って力をもらっていました。

教員を目指している方に伝えたいことは、教員はこんな人だという固定概念ではなく、あなたがなりたい教員像を大事にしてほしいと思います。なりたいと思う教員像は、学生時に自分が求めていた教員だと思います。そして、どこかで一緒に教員として子供たちと関われることを願っています。頑張ってください。

最後になりますが、私に関わってくださった全ての方にお礼申し上げます。